

情報活用能力とプログラミング教育

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」では、「言語能力」、「情報活用能力（情報モラルを含む）」、「問題発見・解決能力」等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことが示されています。

情報活用能力（情報モラルを含む）

情報活用能力とは、「世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」

具体的には

- ・ 必要な程度の速さでのキーボードなどによる文字の入力
- ・ 電子ファイルの保存・整理
- ・ インターネット上の情報の閲覧や電子的な情報の送受信や共有
- ・ **プログラミング的思考**、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力 等

プログラミング教育

< プログラミング教育で育む資質・能力 >

【知識及び技能】

身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと

【思考力、判断力、表現力】

発達の段階に即して、「**プログラミング的思考**」を育成すること

【学びに向かう力、人間性等】

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること

< プログラミング教育のねらい >

- ① 「**プログラミング的思考**」を育むこと
- ② プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと
- ③ 各教科等の内容で実施する場合には、各教科等での学びをより確実なものとする